

東北大学機械系

同窓会ニュース

第15号

東北大学機械系同窓会 〒980-8579 仙台市青葉区荒巻字青葉6-6-01 電話：(022) 795-6926 F A X：(022) 795-6926 E-Mail：dousou@mech.tohoku.ac.jp ホームページ http://www.mech.tohoku.ac.jp/dousou/ 郵便振込口座 番号 02270-8-11176 名称 東北大学機械系同窓会 印刷 東北大学生協同組合

会費納入のお願い 同窓会には、会員皆様から納められている会費によって運営されています。同封の振込用紙を使って会費納入をお願い致します。 ◎ 年会費 2,000円

機械系の最近の取り組みについて

例年八月下旬に大学院入学試験が行われますが、平成二十一年八月に実施された入学試験の志願者数は、本学機械系からのそれは例年通りで減少しました。主な原因として以下の二つが考えられます。第一の原因は、数年前から目立ってきている工学部離れです。それを端的に物語っているのが、毎年七月末に本学で行われているオープンキャンパスへの参加者数の推移です。オープンキャンパスには全国から多くの主に高校生が訪れ、年ごとに行事は盛んにな...

本来、学問・教育には国境は存在せず、国際的に普遍のものであると理解されています。国内に目を転ずれば十八歳人口の減少や工学部離れなどで、学部・大学院いずれも志願者数が減少傾向にあります。そこで、我々は、本格的に留学生を募集することを始めます。現在、大学院博士課程後期三年の課程(ドクターコース)、大学院博士課程前期二年の課程(マスターコース)、学部での留学生数は、それぞれ一五六名中二六名一六・七％、四七三名中二二名四・九％、一一八名中二六名一・三％です。ドクターコースの留学生数は比較的多いと感じてはいたが、それでも数値は二十％以下となっています。マスターコース、学部に至っては数％に留まっています。幸いにも、本年度(平成二十一年度)本学から申請した文部科学省のプロジェクトグローバル三〇(詳細については、本同窓会ニュース「国際機械工学コ...

国際機械工学コースの開設と教育の国際化について

機械系では、本学が採択された「国際化拠点整備事業(グローバル三〇)」に参画し、教育の国際化を推進する目的で、英語コースの開設や、教務システムの英語化などを実施しています。この事業では、①英語による授業のみで学位が取得できるコースの大幅な増設、②留学生受け入れ体制の充実、③日本語・日本文化に関する学習機会の提供、④戦略的な国際連携の推進、のような取組を行い、留学生にとって魅力ある教育研究環境を提供することが期待されています。これらの取り組みは、全学・部局および専攻(学科)レベルでの戦略的な取り組みが必要です。この事業において機械系では、専攻(学科)レベルでの取り組みとして、学部から大学院(修士・博士)までの課程で、一貫した英語コースである「International Mechanical and...

Aerospace Engineering Course (IMAO) を新設し、修士・博士コース (IMAC-G) および、学士コース (IMAC-U) の開設を決定いたしました。これにより、海外からの多様な留学生の獲得と、国際的教育環境下での日本人学生の教育を目指しています。これまでの取り組みとして、平成二十二年十月入学を目指した IMAC のコースの募集を行いました。海外大学のスケジュールと工学研究科の入試スケジュールを考慮して、平成二十二年三月に初の入学試験を実施予定です。さらに、本事業では、海外学生がより受験しやすい環境を整備することを目的に、海外において入学試験を実施することを計画しております。本年度は、中国、韓国、ベトナムでの実施に向けて準備を行い、実際の受験実施国は、受験生の居住国を考慮して決定します。この...

最先端研究開発支援プログラムは総額二七〇〇億円を三十人の研究者にという事で昨年募集があり、その後の政権交代で総額一〇〇〇億円に縮小した形で二〇一〇年三月から二〇一四年三月まで行われることになりました。本学からは、電気通信研究所の大野英男教授も「スピントロニクス」で採択されており、私が中心研究者として採択された「マイクロシステム融合研究開発」では、「マイクロシステム」や MEMS (Micro Electro Mechanical Systems)「あるいは」(ヘテロ集積化)と呼ばれる分野で、半導体技術に機械や光などの他の技術を組み合わせて高付加価値化を追求するものです(文献一)。安全安心な社会、環境・省エネルギー、高齢化などの国民的・地球的課題を克服すると同時に、産業に結びつく成果をあげて我が国の産業競争力を強化することを目的として「出口を見据えた研究開発」と位置づけられています。我が国では、企業内では以前は将来につながる研究も行われていたが、グローバル化で競争が激しくなるにつれ短期的な開発しかできない傾向にあります。このためリスクをかける大学の学外的研究機関が、将来の産業に結びつく研究を担っていくこ...

とが必要になってきていると思います。これを目指した本プログラムでは、図のようにつくばにある産総研の東事業所と連携し、東北大では自由度を生かした初期試作、産総研では量産につながる量産試作や、その他の関連した技術開発を行います。我が国からエレクトロニクス産業が消えていってしまっているが、これは微細化・高密度化が高度に発達した集積回路の産業で、経済性のない行き詰まりに対応できないことも要因です。このため設備を持たなくても開発ができるようにして参入障壁を下げられるようにします。具体的には、本学総長をされた西澤潤一先生が半世紀近く運営されてきた(財)半導体研究振興会が昨年解散した後の建物を整備し、「試作コインランドリー」として会社が来て使えるようにするものです。もう一つは高価なフォトマスクを使わずに、電子データから直接描画して多品種少量で高密度に製作できるようにするものです。このため「超並列電子線描画装置」を東京農工大や装置メーカー(株)クレステックと共同で開発する予定です。私たちは「研究成果」研究費用を大きくするよう費用をかけないでスリムな設備で行う研究、および他の研究室や企業からも利用し易く...

最先端研究開発支援プログラム「マイクロシステム融合研究開発」

Table with 3 columns: 産総研(AIST) 東事業所 (前田 龍太郎), 東北大工学研究科, 東北大西澤記念センター. Rows include research topics like 'ヘテロ集積化初期試作', '試作コインランドリー', and '超並列電子線描画装置' along with responsible researchers and support organizations.

青葉山キャンパスの近況

をセンタースクエアとして建設中ですので、近年の機械系ならびに青葉山キャンパスの近況をお知らせしたいと思います。まず、修了に必要な単位数の少ない大学院コースの整備を行い、その後学部コース (IMAC-U) の整備を行います。学部学生の受け入れは、平成二十三年十月を予定しており、現在、全学教育科目の実施組織として、国際教育院が設置されています。国内における十八歳人口の減少と、教育のグローバル化の進展から、大学の教育システムの国際化は、世界レベルの研究活動を維持するために不可欠なものとなってきています。これまでも、個々の研究者の活動は国際化されてきていますが、教育の国際化は、ある意味で研究の国際化以上に息の長い取り組みが必要と考えています。機械系同窓会の皆様にもお力添えを頂ければ幸甚に存じます。ご支援の程よろしくお願ひ申し上げます。 湯上 浩雄 (機械システムデザイン工学専攻教授)



昭和四十年代に機械系が青葉山に移転して以来、四十年が経過し、現在、工学部ならびに工学研究科の事務があら管理棟や生協に代わる施設がオーブンしました。このこと、平成二十年に「自動車」の過去・未来館」の隣に、「こもれびカフェ」の隣に、中央食堂の老朽化・狭隘化などに伴い、食堂スペースと、学生ニーズに対応しやすきように事務機能ならびに大講義室を一体化した施設(リア棟)を建設中です。この...

機械系環境施設整備委員会 (機械システム工学専攻教授) ナノメカニクス専攻教授)

# 機械二十七年卒同期会



つれない人が居り、当日は、十名の同級生と保護者(夫人)が六名と十六名出席しました。最初に、今年亡くなった二名に黙祷をし、一番遠路参加した山口県の齋藤 睦男君の音頭で乾杯して会は始まりました。幹事より、欠席者の近況報告(出欠返信ハガキ)があり、続いて同級生各自の近況報告に入り、会話は飲むにつれ、学生時代の話・下宿先の話で盛り上がり、最後は「古い顔の唄」を合唱してお開きとなりました。

翌六月二日(火)の観光は、前日の雨とは違って変わり晴天に恵まれ、雲間の富士・河口湖の逆さ富士に見とれました。

幹事の案内で、忍野八海・久保田一竹美術館・青木ヶ原樹海・朝霧高原など素晴らしい観光地でした。しかし、目の前に見る富士山の雄姿にまさるものはありませんでした。十六時、予定どおり新富士駅で、来年 仙台での再会を約束して解散した次第です。

素晴らしい写真は、毎度のことながら、秋山 精一郎君が担当しております。

熊谷 昭行 (機械工学科27年卒)

# 機械三十一年卒同期会



よこはまコスモワールドの観覧車が眺められる特等席でした。出席者は遠隔地からの参加が無かった。昨年より二名少ない十二名、西尾代表幹事の開会の挨拶のち歓談に入った。

恩師沼知 坂山先生の話、病魔メンバーに絵画を趣味としている小田桐、穴戸、西尾君と揃ったので絵の話、原子力産業に携わった小野寺金沢、中島(力)君の話から、中空球は内圧と外圧で何が破壊強度が強いかなど機械屋OBらしい論議に花が咲き、話は延々と続き、いつ果てるとも知らなかった。

我々の年代は昨年、今年、来年が喜寿を迎える所謂「アラ喜寿」で人生を四季に例えれば「冬」にかかって来たところなので、滑り易い地面に足を取られて滑って転ばないように気を付けなければと自戒しつつ、次回幹事に村上、伊藤君を選出して名残り惜しい同期会を終えた。

羽根田 健 (機械工学科31年卒)

# 機械三十四年卒同期会



を楽しんでいる方、海外への旅で見聞を広めている方、俳句を詠んでいる方など、郷土の本を執筆している方など、衰えることを知らない多士済々な仲間達です。多忙で、年齢を感じさせない生き方に、お互いに励まされ、明日からの生き方に大きな刺激を受けました。

卒業後我が国の技術立国の礎となり、築きあげ、工業国としての発展に大きく寄与してきまされたが、さらに意欲的に社会に貢献してあります。

二次会はテーブルを囲んで、お互いに顔を見合いながら、夜の更けゆくのも忘れて語り合いました。

翌日は元気に連れだつてゴルフに行くグループ、奥松島の嵯峨渓を探索するグループ、仙台で親族と過ごす方、ゆっくりホテルでくつろぐ方、思い思いに過ごし帰宅していきまされた。次回も元気で会えることを誓いながら散会しました。

矢吹 雅男 (機械工学科34年卒)

# 機械三十七年卒同期会

二〇〇七年十月に箱根で開催された第十一回同級会で、次回は古希を祝う季節に仙台で、との提案があった。それを受け、〇九年四月に仙台地区では四回目となる同級会を開催した。準備は〇八年四月から始まる。しかし、一年後の桜の開花日と天候を予測することは至難の業である。そこで、在仙幹事二人(下田、山川)は自ら自慢のメール網を使って仙台の桜の開花傾向と同級会案を諸氏に送り、意向を問うた。その結果、開催日は〇九年四月十三、十四の両日、また同級会は第一部「教養課程の三ヶ月を過ごした思い出の地 三神峯公園(旧富沢分校)での花見の宴」、第二部「後輩・橋本氏(武山研出身)が経営する秋保温泉・岩沼屋での古希を祝う会」、第三部「仙台思い出の地巡り」の三部構成で行うことに決定した。

さて当日は、幹事の精進が良かったのか、快晴。桜は六、七分咲き。絶好の花見日和である。

●第一部「花見の宴」  
老幹事二人は重労働にもめげず花見必需品を三神峯公園に荷揚げ(?)し、参加者二十九名を待つ。定刻十五時三十分過ぎ第一部を終え、旧分校構内(核理研)を覗き、ホテルのバスで第二部の会場、秋保温泉・岩沼屋へ移動。途中、核理研門前で散歩中の同期生、内田元忠化教授に偶然出会う。彼は応化卒ではあるが同期生。お互い知る者も多く、感激の再会しばし。

●第二部 同級会(古希を祝う会)  
入浴後、型通りの宴会。古希と言えども皆さん若々しく、三神峯の桜と同様に思い出話も満開。二次会、三次会へと深夜まで話は尽きない。

●第三部「思い出の地巡り」  
翌朝九時、ホテルのバスで思い出の地巡りに出発。天候は晴れ。西の平、八木山橋(旧つり橋)を経て東北大・青葉山キャンパスへ向かう。所狭しと建つ工学部の建物群に驚きつつ、青葉山キャンパスを一周して青葉城址へ。

我々三十七年卒には神奈川県在住の石渡、緑川の両氏が主催する「散策の会」がある。毎年二回、平均十八、九名が参加し、東京とその近郊の名所を四、五時間かけて散策する会である。皆さん健脚である。それ故、今回の同級会でも以降の行程は

# 機械四十一年卒同期会



して来ましたが、今回は、趣向を変えて大会の東京または東京近郊でやろうという事で千葉県舞浜が選ばれた次第です。この理由の中で大きなウエイトを占めたのが、東京デザインランド、東京デザインシーがあり、また、江戸情緒を残す屋形舟での宴会を味わおうというものでした。ほとんどが現役を引退し、時間に余裕があり、また今度若者の集まる所という理由で訪れたこともないデザインランドへ足を延ばすいい機会と思っただ次第です。

幹事役としては、千葉県在住の石橋君、齊藤君、丹野君、飯島君、そして杉本があたりました。幹事役は事前準備に何度か集まりましたが、準備作業はほんの二十分程度で終了し、その後の飲み会が盛り上がったのは言うまでもありません。

準備も整い、参加者は二十九名(夫婦同伴は九組)とこの種の会としては沢山参加してくれたことには幹事一同感謝しております。会当日は十五時三十分までにホテル

# 機械三十七年卒同期会

三時より二十分ほど遅れて全員が揃い、再会を祝って乾杯。公園一面に咲く見事な桜に感動し、公園内の諸々の碑を語り、樹木の間から旧富沢分校(当時の建物は鉄筋三階建の一棟しか残っていない)を眺め、記念写真を撮りあい、全員感動の一時を過ごす。

十五時三十分過ぎ第一部を終え、旧分校構内(核理研)を覗き、ホテルのバスで第二部の会場、秋保温泉・岩沼屋へ移動。途中、核理研門前で散歩中の同期生、内田元忠化教授に偶然出会う。彼は応化卒ではあるが同期生。お互い知る者も多く、感激の再会しばし。

●第二部 同級会(古希を祝う会)  
入浴後、型通りの宴会。古希と言えども皆さん若々しく、三神峯の桜と同様に思い出話も満開。二次会、三次会へと深夜まで話は尽きない。

●第三部「思い出の地巡り」  
翌朝九時、ホテルのバスで思い出の地巡りに出発。天候は晴れ。西の平、八木山橋(旧つり橋)を経て東北大・青葉山キャンパスへ向かう。所狭しと建つ工学部の建物群に驚きつつ、青葉山キャンパスを一周して青葉城址へ。

我々三十七年卒には神奈川県在住の石渡、緑川の両氏が主催する「散策の会」がある。毎年二回、平均十八、九名が参加し、東京とその近郊の名所を四、五時間かけて散策する会である。皆さん健脚である。それ故、今回の同級会でも以降の行程は

七人の方々のご冥福を祈り、一分間の黙祷を捧げることより始まりました。その後、各人の近況報告に入りましたが、「二人一程度に」という司会者の案内にもかかわらず、一人で十分位熱の籠った話をする人もあり、夜を楽しく話をする人、そんな雰囲気でした。それでも、ポイントポイントでは船外に出て、移行く夜景を背景に友人同士、また夫婦でカメラに収まっていた。皆さんのほとんども、現役を引退した人だったので、話題は「これから人生を健康第一で明るく、楽しく、元氣よく過ごそう」ということ、まさに、「第一の人生のスタートの宣言の感あり」といっていいところでした。この屋形船にはカラオケの装置もありましたが、二、三人しか歌う時間がないくらいに話に花が咲いて、あっという間の三時間でした。

席上、最も大切な決議事項として「二年後の同期会を何処にするか」

杉本 良則 (機械工学科41年卒)

すべて徒歩である。さて、青葉城址前でバスと別れ、八木山橋から龍ノ口溪谷を覗き、青葉城址へ。青葉城址から仙台の町並みを眺め、仙台市の変貌ぶりに驚く。添付の写真はその時の一枚である。青葉城址を堪能した後、懐かしい川内キャンパスへ。本日は学生時代に戻り学食での昼食である。新入生でござい返す学食で二七〇円(?)のカレーコロッケを食べる。ちょうど学生の履修届の時期。周囲の新人生諸君は履修科目の話で持ちつきりである。彼ら、彼女らに話しかけると、我々の話にも乗ってくる。また、聞いかける的の確な返事が返ってくる。最近の東北大生は云々とよく話には聞く。いやいやどうして、後輩には磨けば光る素晴らしい学生が多いのだ。教員の責任は大きい。昼食後、川内構内を一巡。米軍の遺産・カマボコ校舎で学んだ我々には見慣れぬ建物ばかりである。それもそのはず入学時から五十年も経つ。誰か曰く、唯一記憶にあるのは川内郵便局だ一つであったとか。

川内キャンパスでの散策を終え、瑞宝殿 御霊堂を登り、片平キャンパスへ。勿論徒歩である。片平正門では、数年前にこの付近に現れた野生の子熊の話も話題になる。現東北大に詳しい矢崎氏の発表で史料館など、三十七年卒生の写真も数多く展示されている。感激! またまた学生時代に戻り、思い出話に花が咲く。その後、学舎だった旧機械工学科(現多元研究所)と流石研を訪れ、北門で解散。多分十六時頃だったと

七人の方々のご冥福を祈り、一分間の黙祷を捧げることより始まりました。その後、各人の近況報告に入りましたが、「二人一程度に」という司会者の案内にもかかわらず、一人で十分位熱の籠った話をする人もあり、夜を楽しく話をする人、そんな雰囲気でした。それでも、ポイントポイントでは船外に出て、移行く夜景を背景に友人同士、また夫婦でカメラに収まっていた。皆さんのほとんども、現役を引退した人だったので、話題は「これから人生を健康第一で明るく、楽しく、元氣よく過ごそう」ということ、まさに、「第一の人生のスタートの宣言の感あり」といっていいところでした。この屋形船にはカラオケの装置もありましたが、二、三人しか歌う時間がないくらいに話に花が咲いて、あっという間の三時間でした。

席上、最も大切な決議事項として「二年後の同期会を何処にするか」

杉本 良則 (機械工学科41年卒)

この二日間、また前記散策の会等を通し感じるのは、「機械昭和三十年卒の絆の強さ」である。これも製図室に籠もり、夜を徹して図面を書いた必修科目「設計製図」のお陰かも知れない。その後一ヶ月余、当日の写真等がメールで飛び交ったことは言うまでもない。

山川 紀夫 (機械工学科37年卒)



菊地英一氏 撮影

### 機械II四十四年卒同窓生より

「四十年も経ってしまった！」卒業生の皆様、お元気でしょうか？特に私の年代（卒業後四十年）は殆どの方定年退職後の悠々自適な毎日を送っていると思います。私も例に漏れず、昨年三月末で難（セクハラ、パワハラ、アカハラ）無く、目度度東北大学（流体科学研究所）を退職しました。

「少年老い易く学成り難し」の言葉をしみじみ味わっているこの頃です。まともにも学も成し遂げられないまま少年はもうとっくに老いてしまっています。

少く大学の近況をお話ししましょう。不況真っ只中の日本でも東北大学ではあちこちのキャンパスで建設ラッシュです。特に食堂などの厚生施設およびその周辺環境は魅力的に変化しつつあります。私たちの時代は、工学部移転直後のたので赤土一色、無機質で打ち放しのコンクリートジャングルしかありませんでした。しかし、今は工学部キャンパスのケヤキ並木も大きくなり、左右の枝が道を覆い隠すまで成長、建屋の外壁もお化粧直しをし、少しづつではありましたが、魅力的なキャンパスに変わってきています。

現在私は、NEDOプロジェクト「高効率高速輸送システムの研究開発」推進のために引き続き母校で研究活動を行っています。勤務先は青葉山キャンパスの「未来科学技術共同

研究センター(Micho)」です。五年後に地下鉄東西線が開通すると青葉山駅に一番近くなり、今盛んに工事が進んでいます。研究内容は左図にあるような「エアロトレイン」の研究開発で、地面効果と呼ばれる流体現象でエアークッション効果を発生、10cmほど浮上して非接触高速走行する乗り物で、一番の売りは「驚くほど少ないエネルギーで走行できる」事です。来年春までに二人乗り機「ARTOS」を開発して「二〇〇km/h」を実現、他の既存の輸送システムと比較して格段にエネルギー効率に優れることを実証します。宮崎県日向市にある旧リニアモーターカー実験線を利用して実験を行っています。

仙台にお越しの折には是非魅力を増しているキャンパス訪問してください。多分知り合いの先生方は殆ど居らず、その意味では別の大学に思えるかも知れませんが、学生時代に過ごしたキャンパスは必ずや甘酸っぱい昔の学生生活を思い起こさせてくれます。

小濱 泰 昭 (機械工学第二学科44年卒)



風薫る五月。二年振りの同窓会が懐かしい仙台で開かれた。十一人が仙台駅前に集まりマイクボックスで秋保温泉に向ったが、みんな元気が良かったので急遽途中下車し、葛ヶ峽をミニハイクした。溪流の両岸に連なる奇岩怪石に思わず歓声があがった。藤の花が美しい三筋滝では出会った美人に集合写真を撮って貰った思い出になった。いい汗をかいて岩沼屋に着くと早速露天風呂に飛び込んで積もる話に華が咲いた。この二年の間に亡くなった友人二人に献杯してからは始まった宴会では、各二分以内の近況報告をお願いしたが時間が守る人は殆どいない。その上平均年齢七十四才になった為か病気の話を多くて、参考にはなるがどうも湿っぽい。H君が手描き手作りの画集を配り、M君がプロはだしの写真

集を披露しようやく明るくなってきた。僕からは「山と旅」という素晴らしい画文集(自分で言うのはおかしいか?)を全員に贈ったがその活躍振りにはみんな大いに刺激された。又その中に納めた工学部屋上の下駄ばき学生服で談笑するセピア色の写真を、みんな懐かしそうに覗きこんでいた。

二次会に移ってからも談笑は深夜まで続いたが、酒の量は昔よりぐっと少なくなっていた。翌朝はバスで西へ走り、急な階段を上り下りして秋保温泉を見物。前夜の雨を集めた大滝は水高が増して迫力満点だった。しかし元気な五人は更に険しい道を滝壺近くまで下っていった。

午前には仙台へ戻り(今回は関西で再会する)事を約束して、白松が最中「をお土産に各々異なる目的地へ散っていった。〇九一五二二三 伊藤 雄 介 (精密工学科33年卒)

### 精密三十三年卒同期会



我が同期会、一昨年に次ぐ二回目、平成二十一年十月二十、二十一日、北信濃は山田温泉郷で開催。当日十時、JR長野駅集合。総勢八名。マイカー二台で四十分程、温泉入口の高井橋で下車。ここは松川渓谷随一の紅葉ビューポイントで、眼下〇〇m余の谷底から両岸天空まで広がる紅葉の絶景に、一同は感動。夕暮れ近く創業二百余年の宿「風景館」に入り、紅葉の夜景を愛でつつ、一五〇mの石段を下った溪流沿いの仙人露天風呂でゆっくり湯浴み。宴会、まずは卒業五十周年、あらためて諸先生の御恩を思い浮かべつつ、ともかくも元気で相まみえたことを互いに祝し乾杯。幹事より卒業三十三年中、すでに十名もの同期が物故との紹介に、諸兄の在りし日を偲び

### 精密三十四年卒同期会



懐かしむ。欠席諸氏、ご多用なる向きは大変なるも、療養中との報には心痛めつつ平癒を念ずる。宿が心尽くしの地産地消肴に舌つづみ杯重ね各自の近況紹介。「年ごろ」とて各人部品あちこちガタ。その対応修復の苦心など健康談々々。救急車の世話になった経験談に曰く「二度と乗るものではない。なにしろガタビシと頭が痛かった」との述懐に、「似たりですごく乗り心地の良いのがあった。レイキウチャ！」の披露に大笑い的一幕。それぞれが日頃取組の地域役員やボランティア活動、旅行、趣味等々紹介。各人それぞれ、所を得て生き生きたる様は同慶のかぎり、喜びを共にす。部屋での二次会、話題多岐。過年NHK-TVプロジェクトX「富士山頂上レール」建設。男たちは命をかけた」に出た木瀬瀧兄の回顧談。時は昭和三十八年の厳冬二月、冬山経験ゼロの登頂決行を前に「初めて(最後の)遺書を書いた」等、難航局面での裏話の数々。その他話し尽きず。

翌朝、旅館を後に標高一九〇〇mの笠岳峠へ。空気澄み渡る好天に、遙か北アルプス連峰が端からはしまくつきり。眼下の山田牧場、下界の紅葉など眺望満喫。裏見の「雷滝」頭上の轟音に肝を冷やす。最後は車で二〇km余、松代藩十萬石の地、今回の隠し玉、太平洋戦争末期、本土決戦最後の拠点に構築の幻の「天皇御座所・防空壕」と「大本営地下壕」に案内。四m×高さ二・七m、碁盤の目状総延長十km

### 精密四十年卒同期会



片平町校舎の精密最後の卒業生である我々は、卒業以来四十年になるが、最近はいろいろな会合を毎年如く開催している。学年理事の及川忠雄、佐藤裕久君が音頭をとり、企画ごとに幹事が自己申請で行う仕組みとなり、自律的な組織になってきた。昨年の二〇〇八年秋には名古屋で鳴海忠孝、櫻井克夫、今仁雄一幹事の主催で開催され、二十六名含む奥様が集まり盛大であった。今回は、二〇〇九年春に千葉で行われた松浦瑛一幹事の詳細な計画を基に開催した「里見公園、万葉の道等の春の散策状況」を紹介する。

米国アラバマ州在住の松田弘三君の春の来日にあわせ、市川市近郊の春の散策となった。参加者は十一名で三月二十八日(土)に行った。四

の面影を有しており再会を喜んだ。桜は三分咲き、肌寒い中を、江戸川沿いを歩いて室町時代に里見氏が北条氏と戦った古戦場の里見公園で、下記の記念写真のあと里見一族が布陣の際に飲用水として使用したと伝えられる「羅漢の井」などを散策した。

その後、辻切りで有名な国府台天満宮、曹洞宗開元寺の二つであった総寧寺、行基菩薩や弘法大師の建立伝説がある弘法寺を見学。境内には水原秋桜子、富安風生、小林一茶などの句碑や、二葉の楓、また見事な花を咲かせていた樹齢四〇〇年の伏姫桜前で記念撮影をした。次に、万葉集にゆかりのある亀井院、万葉の時代、この地域にはたっくさんの州があり、その州から州へのかけ橋が

### 機械II五十七年卒同期会

平成二十一年六月二十日に、横浜は二俣川の謝野殿にて、三戸先生(学年主任を担当頂いた)と、中島教授をお招きし、同期二十六人が集い、実に約二十年ぶりで二回目の同窓会を行いました。

各自の近況報告では、わざわざこの会出席だけの為に、貴重なお土産とともに中国から帰国した岡田君、就職希望先へ三戸先生から、プレッシャーを掛けて頂いたお陰ですんなり就職できた明かした者(誰だっけ?)がいたり、久しぶりの再会に盛り上がりつつも宴は進んでいった。更に当時のエピソードに話が至り、工学部運動会で、優勝は逃したものの、その後の反省会は、大盛況とな



お世話になる難は辛くも免れ、翌朝自宅で目覚める事が出来た。今回は安田幹事長指揮の下、横浜周辺組が準備を行ったが、次回は仙台開催で、第一部はキャンパスめぐり、第二部宴会と、すでに企画も出来上がっている。しかし、五十七年同期は結果が固く、先頭を切って物事を進めるタイプが少ない。具体的に行動を起こす誰かが出るものなのか?何年後の開催となる事やら些か心配ではあるが、そこは遠藤守也君、千葉秀樹君らの奮起を期待し、今回出席出来なかった面々と再会出来る事を楽しみに待つ事にしよう。

松橋 博 基 (機械工学第二学科57年卒)

「継橋」だったという真間継橋などを見学の後、JR市川駅の近くの市川グランドホテルで昼食、和洋折衷のバイキング。食事・歓談をしながら、近況報告を行う。特にアメリカに永住を決定した松田君の米国生活の話は、興味を引いた。

その後、映画「男はつらいよ」で有名な柴又駅から帝釈天参道を散策。だんご屋「くるまや」のモデルになった高木屋さんなど、参道を歩いてみると下町の風情が感じられる。美味しいものから、昔懐かしい物など色々あった。

柴又帝釈天経緯寺や寅さん記念館で、懐かしい映像、模型などを見学し、再会を期し帰路についた。及川 忠雄、松浦 瑛一 (精密工学科40年卒)

# 機械・知能系女子学生交流会

機械・知能系女子学生交流会(女子交流会)は女子学生が研究室や学年の壁を越えて気軽に語り合える場として活動しています。女子交流会の主な活動は月に一回の「女子学生のつどい」ですが、オープンキャンパスでの「女子学生による特別企画」なども行っています。私は平成二十年度のオープンキャンパスにスタッフとして参加したのをきっかけに女子交流会の学生スタッフをやろうになりました。

女子学生のつどいでは部屋とお茶を用意し、女子学生同士の交流の場を提供します。そこで参加学生は昼食をとりながらひとときの団欒を楽しみます。そこは、女性同士だからこそできる相談、学年や年齢を超えての相談など研究室以上の情報交換の場となっています。女子学生のつどいが女性と話をする数少ない機会となつている私にとって、このつどいは私が大学生活の中で最も楽しみにしているものの一つです。女子

同窓生の皆様に本学の人力飛行機製作サークルの活動を報告いたします。本サークルは平成五年に設立され、今年で十八年目の比較的新しいサークルです。サークル名は「Wind (風) と nauts (船乗り) を合わせた造語で、「風の船乗り」という意味です。機体製作費を含むサークル活動資金は、部費とOB・OGからの寄付によるもので行っています。サークル活動は主に、年に一度テレビ局が主催している、琵琶湖で夏に開催される大会に出場し、人力プロペラ機を用いて飛行距離を競う部門で優勝する事を目標に行われています。

## 人力飛行機製作サークル 東北大学 WINDNAUTS の活動について

優勝をしております。平成二十年に行われた大会では、大会が規定した最大距離を飛行して、三十六kmを記録して優勝しました。この様な進歩の背景にあるのは、先輩から後輩によるノウハウの伝達と徹底的に行われるテストフライトの回数です。毎年、パイロットをサークル内で選出し、その体型と出力に合わせて機体の設計を行うのですが、設計する際に、経験的に数値を決める部分も有ります。その部分が年代を重ねるにつれて洗練されていったり、また、製作に関しては、先輩に製作手法などを教わり、自分なりに工夫をして、後輩にそれを伝えるといった様に技術をより良い形で受け継いで行きます。

今年に残念ながら、不況の影響で大会が開催されませんでした。しかし、顧問である大津茂教授(流体科学研究所)を始め、永富良一教授(医工研究所)など大学の先生方の多大なる協力を経て、研究活動の一環としてFAI (Federation Aeronautique Internationale) による公式記録飛行を琵琶湖で行う事が出来ました。

この記録飛行は、自力走行からの離陸が義務付けられており、例年の大会とは異なった状況での飛行でした。また今回は本サークルのメンバーが、飛行の申請や、飛行区域への許可を取り、安全対策や飛行におけるマニュアルを作成したり、初めての事ばかりでした。また、予算面でも通常の大会の約二倍の負担でしたが、様々な人の協力を得て、平成二十一年八月十二日記録飛行を行う事が出来ました。

記録飛行の目標はマサチューセッツ工科大学が保持している世界記録一六kmと日本大学が記録している日本記録四十九kmを超える事でした。結果は残念ながら二〇・七二kmでした。プロペラを回す際のチェーンを保持する部分が破損した事が原因でした。この失敗を生かして、次の大会に挑戦したいと思っております。そして、いつか世界記録を超える



記録飛行フライト中の様子

交流会のスタッフには他の研究室に所属する博士課程の学生もおり、定期的な交流会への参加は私の研究生活に潤いと刺激を与えてくれます。さらに、女子学生のつどいの一環として、四月には学部一年生や外部から修士課程に入学した学生などの新入生を対象とした交流会を開催します。平成二十一年度の交流会は助教をされている女性研究者によるプレゼンテーションから始まり、プレゼンテーションの後には学部、修士の学生と助教の先生を交えてのパネルディスカッションを行いました。私も博士の学生代表として参加しました。パネルディスカッションでは新入生から募集した質問に対して答えていくのですが、質問に対するパネラーの回答は本当に多種多様で、私自身も目から鱗の落ちる思いをしました。

また、平成十九年度から行っているオープンキャンパスの特別企画ではオープンキャンパスの案内や機械・知能系女子学生の研究や学生生活の紹介を行います。この企画で実施したアンケートには、「ためになった」「またやってほしい」などの声が多く見られました。会場でも大学生生活などについて聞かれることが多く、この企画が高校生の役に立っているのだと感じました。一方で私にとってもこの企画にスタッフとして参加したことはとても貴重な機会となりました。日々の研究生活において分野外の人や一般の人に自分の研究を紹介する機会はありません。そのような中で高校生に自分の研究について一般的な観点からの理解を深めるいい機会になりました。



女子学生のつどい(四月)でのパネルディスカッション

産学連携推進室は平成十二年に庄司克雄教授を中心として組織され、八十九名の産学連携委員により学生の就職活動の支援と研究などに関わる産学交流を目的として活動してきております。

## 産学連携推進室から

活動として、学生の新規採用に関わる企業の方々と面談(自由応募の企業も含む)、機械系内での就職にかかわる学生の面談と就職を希望する企業への推薦、企業と学生の交流の場であるテクノフェスティバルの開催および機械系の教員と産業界との交流を図る技術交流会の開催(年二回)などです。テクノフェスティバルは産学懇談会の会員企業約一三〇社を二日にかけて、午後半日ずつ、各企業に展示ブースを出して頂き、学生と懇談して頂くもので、産学連携委員の本担当教授の下で、大学院博士後期三年の課程在学の学生がWGとして計画し、開催しています。技術交流会は、研究分野のバランスをとりながら四研究室を交替で選抜し、その研究紹介と研究室見学および機械系教員との昼食会と夕

方々の懇親会を行っております。これらの活動におきまして、多くの本学機械系同窓生が会社を代表として来られております。私も、平成二十年、二十一年度と産学連携推進室長を務めさせて頂きましたが、その間、多くの同窓生にお会いすることが出来まして、大変懐かしく、また嬉しく思っております。

これらのことから、機械系の学生の企業への就職につきましては、先輩としての機械系同窓生の役割が極めて大きいことを痛感しております。また、技術立国として日本の国力を支える企業の技術力の中心的役割を本学機械系の卒業生が果たしておられることを実感して、大変嬉しく思っております。

研究面での産学交流も技術交流会などをきっかけに芽生えております。機械系同窓生の皆様方にも、今後益々のご支援を頂きたく存じます。

横堀 壽光  
(産学連携推進室室長  
ナノメカニクス専攻教授)

## 機械系HPがリニューアルされました!!

ゆめ・きかい・東北大をキャッチフレーズに内容も充実し、各種情報が入手しやすくなりました。大学院紹介や学部紹介では、在校生の生の声が見られます。是非卒業生の方々からも東北大学機械系をPRいただければ幸いです

<http://www.mech.tohoku.ac.jp/>



## 最終講義

平成二十一年三月三十一日付をもって、機械システムデザイン工学専攻の井上克己先生、バイオロボティクス専攻の小柳光正先生、多元物質科学研究所の河野省三先生が定年退職を迎えられます。これに先立ちまして「歯車とデザイン」

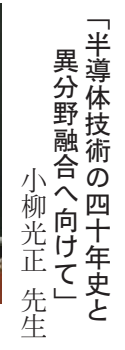
井上克己 先生

「半導体技術の四十年史と異分野融合へ向けて」

小柳光正 先生

「研究四十年の回想」

河野省三 先生



て、二月二十三日機械系第一講義室で井上先生と小柳先生の最終講義が行われました。

また、三月五日には、材料・物性総合研究棟一号館大会議室にて河野先生の最終講義が行われました。

どの最終講義においても、講演室の席が足りなくなるほど、在校生、卒業生、教職員および関係者が詰めかけて最後の講義に熱心に耳を傾けていました。

井上克己先生、小柳光正先生、河野省三先生、長きにわたるご指導本当にありがとうございました。ますますお元気で、更なるご指導の程よろしくお願いいたします。

「研究四十年の回想」

河野省三 先生

## 平成21年度通常総会予告

平成21年度通常総会は、平成22年5月15日(土)13:00より東北大学さくらホール(片平キャンパス内)にて開催されます。皆様お誘い合わせのうえ、多数のご出席をいただきますようご案内申し上げます。

詳細は、同封の平成21年度通常総会・特別講演会のご案内をご覧ください。

## 事務局より

- ◎勤務時間の変更になりました  
勤務時間 月・水・金 10:00-16:00  
Tel/FAX: 022-795-6926, E-mail: dousou@mech.tohoku.ac.jp
- ◎同級会(同期会)ニュース  
報告・記事の原稿を投稿してください。字数800~1,000字位、記念写真一葉と一緒に。封筒に原稿在中と明記のこと。送り先は機械系同窓会事務局。
- ◎同窓会誌にご投稿を!  
テーマ自由。事務局にご連絡いただければ執筆要綱をお送りします。
- ◎住所変更の場合、必ず新住所をお知らせ下さい。同時に旧住所の最寄り郵便局で新住所あての回送手続きをとって下さい。
- ◎海外に駐在される方は、駐在先の住所をご連絡下さい。帰国後は直ちに現住所をお知らせください。
- ◎懐かしいお写真を事務局までお寄せください。会誌、ニュースレター、ホームページに掲載させていただきます。
- ◎会員の訃報は同窓会誌に掲載いたします。
- ◎同期会の開催を支援します  
同期会等の開催を支援致します。開催計画がお決まりになりましたら機械系同窓会事務局までご相談下さい。
- ◎同期会の開催予告等をホームページやニュースレターに掲載致しますのでご連絡下さい。(ホームページは随時、ニュースレターは発行の2ヶ月前まで受付いたします。)
- ◎同窓会HP (<http://www.mech.tohoku.ac.jp/dousou/>)

## 編集後記

同窓会ニュースレター第十五号をお届けいたします。今回は、現在機械系が取り組んでいる活動や新しい国際的な教育プログラム、最先端研究、青葉山キャンパスの変化、学生の活動状況など多岐にわたる話題を集めました。同窓生の皆様におかれましては、機械系の活発な活動をご周知頂き、今後ともご指導・ご協力頂ければ幸いです。最後になりますが、原稿執筆にご協力頂いた皆様に厚く御礼申し上げます。

(平田 泰久)